

平成29年1月定例記者会見要旨（平成28年12月27日開催）

1. 坂出市政の今年1年の総括を

今年、坂出市政の最上位の方針であり、あるべき将来のまちづくりの指針となる「坂出市まちづくり基本構想」を策定し、坂出市の将来の方向付けができたことが一番の大きな出来事だった。ハード面では坂出北インターチェンジのフルインター化が前進しており実施計画書の作成に向け、概略設計や概算事業費の算定を行っている段階である。それに関連して番の州臨海工業団地分譲地への企業誘致も進み、8月に2社決まった。

本年からの2か年計画でコンパクトシティプラスネットワークの構築にむけて立地適正化計画の策定を進めている。坂出市は駅中心部半径1キロ圏内に公共施設等が集結し住みやすいところである。市街地をさらに活性化するため、まちなか中高層共同住宅建設促進事業補助金を創設し、問合せも寄せられている。まちなか再生と住みやすい環境づくりを図ることで「働きたい 住みたい 子育てしたい 共働のまち さかいで」の実現に向けての取り組みを進めている。

またイベント関連では春に沙弥島で瀬戸内国際芸術祭が開催された。市街地でも坂出アートプロジェクト等を開催し多くの来場者でにぎわいをみせた。芸術で街全体を埋めつくそうと秋から芸術関連のイベントを毎月開催している。

音楽関係では瀬戸フィルハーモニー交響楽団による街角コンサートや市民ホールでのクリスマスコンサートを開催し大盛況であった。また来年1月には「サカイデ マングローブ」と題した現代サーカスを美術館で開催する。2月には「ミセモノガタリ」と題して市内の店舗での実際の出来事や歴史を題材とした演劇公演を商店街で行ったり、劇作家の平田オリザさんの講演会・ワークショップ、アンドロイドと人間の俳優が共演するアンドロイド演劇も開催する。

市の特長や特色を出すため芸術祭以降、幅広いアート事業を展開し、ワークショップ等を通じて市民参加を促し、新たな魅力発信と付加価値の創造に努めている。にぎわい創出事業でも芸術的な事業が多いことから来年も市民共働・市民参加で芸術によるにぎわいづくりを推し進め、さらなる飛躍ができればと考えている。

2. 特産品相互協定を締結した泉佐野市の感触は

12月3日に泉佐野市の農業祭に参加し特産品相互取扱協定を締結した。泉佐野市は、関西国際空港連絡橋の玄関口、坂出市は、瀬戸大橋の四国側玄関口という共通点がある。今後参加している10市とも相談、協力しながら特産品PRに努めたり、色々な可能性を探っていきたい。また12月18日には「さかいで楽市楽座」に泉佐野市から出展していただきキャベツ等の販売を行ったところである。

今後の両市間の交流発展、坂出の特産品の販路拡大にも繋がればと大いに期待している。